

3 大麦・大豆・はとむぎ

【大麦】

(1) 活動の重点指導事項

ア 収量・品質の向上

(2) 活動の経過と実績

ア 収量・品質の向上

- (ア) 苗立数確保のため、排水溝の設置による播種時の土壌条件向上、排水溝の連結等の基本技術の徹底を指導した。
- (イ) 過剰分けつ防止のため、適期播種（10月中～下旬）を基本とし、播種時期に応じた適正な播種量を指導した。
- (ウ) 適正穂数確保のため、生育状況に応じた消雪後の追肥を一発肥料及び分施肥別に現地講習会や営農だよりで指導し、上乘せ追肥の実施率が向上した。
- (エ) 排水対策実施の徹底を啓発するため、サブソイラ施行による栽培実証ほを設置した。
- (オ) 連作田を中心に、土づくり資材の投入による地力向上対策、イネ科難防除雑草の対策を指導した。



排水対策実証圃



収穫適期調査

六条大麦の作付状況と収量

市町名	作付面積 (ha)			10a当たりの収量 (kg/10a)			生産量 (t)		
	27年産	28年産	29年産	27年産	28年産	29年産	27年産	28年産	29年産
小松市	323	317	328	314	332	343	1,013	1,050	1,126
加賀市	31	34	34	287	273	282	89	93	96
能美市	184	189	206	362	403	415	666	761	855
川北町	133	140	148	359	406	418	477	568	619
合計	671	680	716	335	364	377	2,245	2,472	2,696

(北陸農政局)

検査結果

		総検査数量 (kg)	等級比率 (%)		
			1等	2等	規格外
26年産		1,764,498	85.5	—	14.5
27年産		2,230,278	78.3	—	21.7
28年産		2,473,991	65.2	—	34.8
29年産	J A小松市	1,157,723	77.2	—	22.8
	J A加賀	74,743	75.4	—	24.6
	J A能美	1,231,001	77.7	—	22.3
	J A根上	15,391	77.1	—	22.9
	合計	2,478,858	77.4	—	22.6

注：規格外は2.4mm（または2.35mm）調製網下、2等は種子調製の2等麦
（南加賀農林総合事務所調べ）

【小麦】

小麦は刈り取りが梅雨時期と重なり雨による品質の低下が心配されるため、1983年（昭和58年）以来、栽培が敬遠されてきたが、小松市の特産品である小松うどんに利用するため、J A小松市では平成22年より再開した。

南加賀農林総合事務所では、小麦の栽培に当たって、①刈り取りを梅雨の晴れ間の1日で終了できるよう、1地区当たりの作付面積を5ha以内とするよう指導しているほか、②小麦栽培マニュアルの作成、管理情報の発信等の支援を行った。

なお、小麦は金沢市内の業者で製粉されている。

小麦（ゆきちから等）の作付状況と収量

	作付面積 (ha)	10a当たり 収量 (kg/10a)	生産量(t) (うち規格外)
24年産	20.0	321	66.7 (1.8)
25年産	33.0	297	108.1 (10.2)
26年産	25.0	407	107.1 (5.4)
27年産	28.5	256	73.1 (4.0)
28年産	36.3	400	145.3 (5.1)
29年産	37.7	335	126.0 (5.3)

（南加賀農林総合事務所調べ）



収穫期の小麦圃場

【はとむぎ】

はとむぎは、能美市で栽培され、はとむぎ茶に加工、販売されている。

南加賀農林総合事務所では、播種や収穫、病害虫防除など、栽培管理について指導を行った。

はとむぎの作付状況と収量の推移

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
作付面積(ha)	3.6	3.2	3.2	2.7	3.5	3.5
収穫量(t)	9.7	10.6	9.8	9.3	12.3	12
収量(kg/10a)	270	330	305	346	351	343
栽培農家数(戸)	9	8	8	8	9	9

（南加賀農林総合事務所調べ）

【大豆】

(1) 活動の重点指導事項

- ア 収量・品質の向上
- イ 需要者ニーズに対応した代替品種等の普及定着

(2) 活動の経過と実績

- ア 収量・品質の向上
 - (ア) 大豆栽培技術研修会を開催し、「里のほほえみ」の品種特性に合わせた適期・適量の播種を指導した。
 - (イ) 苗立の安定確保のため、排水溝の早期設置と碎土率の向上について指導した。また、初期生育の確保のため、種子処理剤(フタスジヒメハムシ対策)の使用を推進した。
 - (ウ) 被害粒低減対策として、ウコンノメイガ、マメシクイガ等に対応した防除実施を指導した。また、高温干ばつ時の畝間かん水の効果を営農だよりで示し実施を促した。
 - (エ) 地区別の成熟期把握による適期収穫の実施や、生産者参加型の刈取適期調査を実施し、刈取適期判断早見表を提示した。
 - (オ) サブソイラ、アップカッターロータリー等の排水対策、狭畦栽培の実証ほを設置するとともに、排水対策技術の実演会を実施した。
- イ 需要者ニーズに対応した代替品種等の普及定着
 - (ア) 奨励品種「里のほほえみ」の作付面積が 558ha（管内全面積の 95%）と拡大した。



大豆栽培技術研修会



「里のほほえみ」の作付面積拡大



排水対策の実演会



狭畦栽培の実証

大豆の作付状況

市町名	27年産			28年産			29年産		
	普通栽培	麦跡栽培	計	普通栽培	麦跡栽培	計	普通栽培	麦跡栽培	計
小松市	32	128	160	68	140	208	73	157	230
加賀市	140	0	140	145	0	145	160	4	164
能美市	37	48	85	51	51	102	37	52	89
川北町	19	40	59	20	66	86	59	62	121
合計	228	216	444	284	257	541	329	275	604

(南加賀農林総合事務所調べ)

大豆の収量および生産量

市町名	10a当たりの収量(kg)			生産量(t)		
	27年産	28年産	29年産	27年産	28年産	29年産
小松市	246	231	178	393	480	409
加賀市	189	148	144	265	215	236
能美市	214	201	188	182	205	167
川北町	183	214	210	108	184	254
合計	214	200	176	948	1,084	1,066

(北陸農政局)

検査結果 (H30年2月末現在)

	総検査数量(kg)	等級比率(%)				粒別比率(%)				
		1等	2等	3等	特定加工用	大粒	中粒	小粒	極小粒	
26年産	683,790	—	0.0	10.2	89.7	88.8	9.9	1.3	—	
27年産	923,130	0.7	5.5	38.2	55.7	94.9	4.4	0.6	—	
28年産	1,057,890	0.0	0.0	10.4	89.1	74.3	23.4	2.3	—	
29年産	J A 小松市	398,940	—	—	18.0	81.8	92.8	6.5	0.7	—
	J A 加賀	198,090	0.0	0.0	5.2	94.8	94.5	5.3	0.2	—
	J A 能美	393,330	—	—	8.0	91.3	93.3	6.1	0.6	—
	J A 根上	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	990,360	0.0	0.0	11.5	88.2	93.4	6.1	0.6	—	

(南加賀農林総合事務所調べ)